

# 小中連携の取組

## 1. 個人記録票の活用

- ・中学校校区内の小・中学校で共通した個人記録票（様式）を活用し、不登校・不登校傾向の児童生徒の状況や対応を記録していく。
- ・小中連絡会（旧小6担任と新中1担当との引継ぎ）を年度末だけでなく新学期になってから複数回持つことで、中学校側のニーズに合った情報交換が行われるようになる。

### 《個人記録票 項目》

●月ごとの欠席日数
「不登校としての欠席」「事故欠」「病欠」 ※不登校による累積欠席日数が30日未満でも、欠席理由に関係なく（けが、病気による入院を除く）累積欠席日数が20日以上の子供生徒も対象となる。 〔月別報告の留意事項より〕
●月ごとの不登校の状況
「全く登校できない」「登校時は別室」「登校時は教室」「登校復帰」など
●対応者記録
「担任」「学年スタッフ」「教育相談担当」「養護教諭」「部活動顧問」「学習支援員」 「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」など
●学校の対応記録
「いつ」「だれが」「なにをした」「児童生徒の反応」を毎月
●家庭の状況
「家族構成」「家庭訪問時の様子」など
●その他
「病院への受診歴」「検査日」「友人関係」「部活動」など引き継ぎ事項として必要と思われること

## 2. 母校（小学校へ）ボランティアの実施

- ・小学校からの要請により、運動会などの学校行事や清掃活動、朝の読み聞かせなどに中学生が出向いてボランティア活動を行う。
- ・中学校からの要請により、職場体験活動で数日間、生徒が学校内の仕事の手伝いを行う。
- ・小学校職員からの声かけを積極的に行うことで、困ったときに相談できる雰囲気づくりを行う。

